

VMWare 仮想 なプレイヤー 12 で CPS を 10.1.0 AIO (すべて 1 で) インストールして下さい

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[手順](#)

[確認](#)

概要

この資料は VMware ワークステーション プレイヤーで 1 (AIO) ソリューションに Cisco ポリシー スイートを (CPS) すべてインストールすることのプロシージャを記述したものです。

そのような配備ソリューションを自体は、トレーニング目的でまたは試作期間機能テストのためのラボとして詳しくなって役立ちます。

プロシージャは CPS バージョン 10.1.0 に適用されましたり、他のバージョンのためにまた適応することができます。 特定の手順があるように公式 ドキュメンテーションを確認して下さい。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- 実行しているコンピューター MS Windows。 プロシージャは MAC OS のための小さいバリエーションと同様に適用します。
- VMware ワークステーション プレイヤー ソフトウェア (MAC OS のための VMWare Fusin) の VMware Workstation
- ホスト マシンで利用可能な少なくとも 4GB RAM (よりよい 8GB)
- 4 つの利用可能な CPU コア。
- 2 つのバーチャルネットワーク インターフェイス (それは NAT およびホストだけバーチャ

ルネットワークを使用することは良いです)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

手順

ステップ 1. cisco.com から CPS ソフトウェアを、即ち **CPS_10.1.0.release.iso** および **CPS_10.1.0_Base.release.tar.gz** ファイル ダウンロードして下さい。

ステップ 2.抽出。 **CPS_10.1.0_Base.release.tar.gz**。あなたの中で **base.vmdk** ファイル (VM ディスクイメージ) を見つけるべきです。これは VM のためにハードドライブとして後の手順で使用されます。

ステップ 3. CentOS 64 ビット型の新しい VM を作成して下さい。非常に小さい HDD を選択しました-それからあとでそれを削除します。

ハードウェアをカスタマイズして下さい、そうすれば含まれています 2 NIC (1 内部および管理のための 1) が

これ VM 設定を編集する方法:

- 少なくとも 4GB RAM を追加して下さい。
- 4 つの CPU コアを追加し、**仮想化 Intel VTx/EPT** か **AMD-V/RVI** オプションを有効にして下さい。
- バーチャル CD-ROM で **CPS_10.1.0.release.iso** を挿入して下さい。
- 古い HDD を取除いて下さい。
- 次の通り HDD としてより早いダウンロードされた **base.vmdk** ファイルを追加して下さい:
 - 仮想マシン設定エディタを (**VM > 設定**) 開き、『**Add**』をクリックして下さい。追加 Hardware Wizard はステップによって仮想ディスクを作成するためにガイドします。
 - **ハードディスク**をクリックし、そして『**Next**』をクリックして下さい。
 - **使用を既存の仮想ディスク**選択し、そして『**Next**』をクリックして下さい。
 - 既存のディスク ファイルのためのパスおよびファイル名を入力するか、または**ファイルにナビゲート**するために『**Browse**』をクリックして下さい。
 - **[OK]** をクリックします。

注: ハードディスク サイズは 100GB ですが、実際により少しを大いに占めます (それはダイナミック サイズです) 。

VMWare プレイヤーを閉じ、VM が作成されたフォルダの方に参照して下さい (**C:\Users\
<username> \文書\仮想マシン**のような何かはあるはずです)

テキストエディタとの **.vmx** ファイルを開き、8 に下記に記載されているように

virtualHW.version を修正して下さい:

```
virtualHW.version = "8"
```

ファイルを保存し、VM を起動して下さい。

注: このメッセージはクラスタ マネージャ VM コンソールで報告されることがあります。
このメッセージ「精査 EDD (デイセーブルにするべき edd=off) 無視」をできます。

マシンが起動した後、**root/cisco123** とログインして下さい

ステップ 4. ネットワーク設定を設定して下さい:

次の通り **cfg-eth0** の修正によって LAN (エイリアス private) に **eth0** インターフェイスを割り当てて下さい:

```
DEVICE=eth0
TYPE=Ethernet
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
IPADDR=192.168.119.200
NETMASK=255.255.255.0
```

次の通り **cfg-eth1** の修正によって別の LAN (エイリアス パブリック) に **eth1** インターフェイスを割り当てて下さい:

```
DEVICE=eth1
TYPE=Ethernet
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
IPADDR=172.16.1.200
NETMASK=255.255.255.0
```

IP アドレスが VMware プレイヤーで接続する仮想 な ホスト アダプタに関連付けられる IP アドレスと一直線に設定されるようにして下さい。

(下記に描写される) たとえば最初のインターフェイスが 192.168.119.0/24 ネットワークの一部で設定される VMware ネットワークアダプタ VMnet 8 に接続されれば、そしてこの範囲から選択しました IP アドレスをべきです。

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

```
Connection-specific DNS Suffix . . :
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
```

/etc/init.d/network **再始動**のネットワークングを再起動して下さい。

この場合マシンに SSH できます。

ステップ 5. SSH およびパブリックアドレスを使用しているルート ユーザとして VM にログインして下さい (または VM コンソールによって) 。

/etc/hosts のクラスタ マネージャの **eth0** プライベート IP アドレスを編集して下さい/追加して下さい。

次に、例を示します。

192.168.119.200 installer

ステップ 6. RSA 公開キーをアップデートして下さい:

```
cp /etc/ssh/ssh_host_rsa_key.pub /root/.ssh/id_rsa.pub
```

ステップ 7. CD/DVD からの ISO をマウントして下さい:

```
mkdir -p /mnt/iso
```

```
mount -o loop /dev/sr0 /mnt/iso/
```

注: `install.sh` コマンドが `/mnt/iso` で利用できるかどうか確かめて下さい。

`install.sh` コマンドが利用できない場合、これらのステップを実行して下さい

1. CPS ISO をアンマウントして下さい:

```
umount /mnt/iso
```

2. CD/DVD からの ISO をマウントして下さい:

```
mount -o loop /dev/sr1 /mnt/iso/
```

ステップ 8 すべての CPS コンポーネントが単一 VM でインストールされているところでオールインワン (AIO) 配備をインストールするために、「AIO」であるためにこのノードを設定して下さい:

```
echo NODE_TYPE=aio > /etc/broadhop.profile
```

ステップ 9. ISO ディレクトリから `install.sh` スクリプトを実行して下さい:

```
cd /mnt/iso  
./install.sh
```

インストール型のためにプロンプト表示された場合、`モービル`を入力して下さい。

ステップ 10 環境を初期化するためにプロンプト表示された場合 `y`.を入力して下さい。

インストールの種類のためにプロンプト表示された場合、`1`つを入力して下さい (新しい配備)。

`install.sh` が終わるとき、`-`システム構成をこのサーバのホスト名に関して正しいです、検証して下さい:

```
cat /etc/sysconfig/network
```

ホスト名変数の値をチェックして下さい。通常この値はラボに設定されます、代替ホスト名ははたらくことができます。この値を修正したら- VM を再起動して下さい

ステップ 11. CPS の初期設定をやり直すためにこのコマンドを発行して下さい。

```
/var/qps/install/current/scripts/upgrade/reinit.sh
```

`reinit.sh` はうまく実行される場合 AIO およびまたチェックのパペットを実行します。

(初めて切られたそれを、SSH セッションしました。VM でそれをする事直接コンソール接続を行うためによいはずです)

ステップ 12 `/etc/broadhop.profile` ファイルの AIO で設定されるべきノードをチェックして下さい。AIO であることを設定しない場合明示的に AIO であるためにこのノードを設定して下さい:

ステップ 13 システムに適切なコンフィギュレーションを適用するために設定 スクリプトを実行して下さい:

```
puppet apply -v --modulepath "/etc/puppet/modules:/etc/puppet/env_config/modules" --pluginsync /etc/puppet/manifests/init.pp --logdest /var/log/puppet.log
```

ステップ 14. 設定を送達し、CPS を再起動するこれらのコマンドを実行して下さい。

```
/var/qps/bin/control/restartall.sh
```

restartall.sh スクリプト プロセスはどちらかの Y/N がプロセスを再起動することができるようにプロンプト表示します。プロセスを再起動するために Y を入力して下さい。

ステップ 15. コントロール センターのためのパスワードを実行します **change_passwd.sh** スクリプトを変えて下さい。これが **change_passwd.sh** スクリプトを実行する前に新しいインストール、であるので、PATH の broadhop スクリプトのソースをたどるためにソース **/etc/profile.d/broadhop.sh** を実行して下さい。これは初めてだけに適当です。

ステップ 16. grafana ユーザを追加して下さい

ビューだけアクセスのユーザを追加して下さい:

```
/usr/bin/htpasswd -cs /var/broadhop/.htpasswd user1
```

grafana についてのより多くのヒントは公式 ドキュメンテーションの検索である場合もあります。

確認

この時点でクラスタ マネージャ ノードはオールインワン サービスを提供するために正しく設定されます。

ステータスを下記のもの確認して下さい:

```
/var/qps/bin/diag/diagnostics.sh
```

[FAIL]そこにリストされています確認しないで下さい

すべてのアプリケーションの検証に実行して下さい

```
/var/qps/bin/diag/about.sh
```

とりわけ (ソフトウェア バージョンのように)、それらにアクセスするために AIO および URL で動作しているすべてのサービスのリストを得ます。